

～子供に夢や感動を！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 11 月 14 日
< 第 7 号 >
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 0 3 - 5 8 0 2 - 0 3 1 8



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

● 第 13 回ゼミナール

「各教科等の特性に応じた授業づくり (第 2 回公開ゼミナール)」

平成 27 年 10 月 11 日 (日) に、第 13 回ゼミナール「各教科等の特性に応じた授業づくり～言語活動の充実に向けた模擬授業～」を実施しました。今回のゼミナールは、連携大学及び次年度の連携予定大学の学生等を対象に公開ゼミナールを実施し、約 300 名の学生が参加しました。

当日は、塾生が作成した学習指導案に基づき、塾生による模擬授業と参加者を含めた協議を行うとともに、教職員研修センターの統括指導主事・指導主事からの指導・助言を通して、教科等の指導法について理解を深めました。

国語「言葉の使い方を考えよう」



国語「おしとワナッチ! [かくれた] 先生の目を伝えよう」



社会「新しい日本、平和な日本へ」



社会「明治の国づくりを進めた人々」



算数「速さ」



算数「面積の求め方を考えよう」



理科「電流が生み出す力を探ろう」



理科「ものの温まり方」



体育「病気の子供 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」



体育「育ちゆく体とわたし」



道徳「謙虚に広い心をもって」



道徳「社会の決まりを守って」



特別活動

「3年2組のギネスブックを作ろう」



特別支援教育

「おおきなおいも」



特別支援教育

「伝えてみよう、話してみよう」



特別支援教育

「気持ちを表現する言葉を知ろう」



【連載シリーズ：授業づくりのポイント⑥】

◇指導方法・指導技術を身に付ける◇

東京教師養成塾教授 水野 久美恵

指導方法や指導技術は一朝一夕に身に付くものではなく、年数によって自然に身に付くものとも言えません。自分磨きを行い、改善していくことでしか身に付かないということは、既に分かっていることでしょう。私たちは、常によくありたいと願っています。認めてもらいたいという欲求もあります。同じように子供もそう願っているのです。教師として、そのことをどれだけ真摯に受け止め、児童・生徒にとって実り大きい実践ができるかが問われているのです。

1 感性を磨く

感性は教員に必要なものです。頭と心と体を鍛えて感性を磨きましょう。

- (1) 教科書に書かれている表面だけの理解で満足するのではなく、学習指導要領や解説書を読みこなし、他の実践資料等や文献にもふれて内容の理解を深める。授業実践のアイディアを開発する。
- (2) 子供全員と毎日話をするなど、児童・生徒理解に努める。教育相談等の研修会に継続して参加し、子供の発達や心理を学び、理解を深める。子供の小さな変化に気を配ることができるような自分をつくる。
- (3) 本を多く読み、知識を広げる。ニュース等から社会情勢に関心をもち情報を整理する。
- (4) 友達と語り合う場や笑い合う場をもつ。心の安定感を活力とする。
- (5) 趣味等などをはじめ様々なことに関心をもち、心身のリフレッシュをする。 等

2 子供主体の授業などをする

最高の教師は、子供の心に火を付けると言われます。子供が夢中になれる環境をつくり、その後は子供の動き出す方向に徹底的について行く授業をしましょう。

- (1) 子供にとって楽しい授業を計画し、実践する。教師にとっても楽しい授業にする。
- (2) 授業は、笑顔で行う習慣を付ける。児童・生徒が意欲をもち、主体的に取り組むことができる授業を行う。
- (3) 子供自らが授業をつくり上げるようにする。子供から問いが生まれるように仕掛けをし、子供の動き出す方向を認めていく。
- (4) 子供のつぶやきや発言に肯定的評価を付けて返し、子供の意欲を高める。
- (5) 授業の流れが分かる板書だけではなく、思考の跡が残る板書を心掛ける。 等
このような内容を常に意識し、自己の指導力を磨いていきましょう。

◆子供のよさを引き出す◆

東京教師養成塾教授 牛島 隆文

子供はかけがえのない存在であり、みな素晴らしいよさをもっています。子供のよさとは、その子らしさであり、その子のもち味であり、個性であると言えます。しかし、わがままや自己中心的な言動を個性と勘違いしているのではないだろうかと感じることがあります。自分の好きなことだけに取り組み、嫌いなことを他人に押しつけることなどがその一例です。個性とは、集団との関わりの中で、他者から認められて初めてよさとなります。教師は、子供が自らを成長させようとする姿を個性・よさとして捉え、個々の多様性を尊重するとともに、子供の内面に働きかける際は、次の4点に留意して一人一人のよさや可能性を引き出し、伸ばしていくことが大切です。

- ◆子供一人一人のよさを他者との比較ではなく、その子なりのよさとして認めて、そのよさを実感させる。
- ◆成功体験を多く積ませ、他者に貢献できた自分に気付かせる。
- ◆子供の言動に価値付けをし、その価値に気付かせる。
- ◆学級内に互いのよさを認め合う雰囲気を醸成し、温かな思いやりに満ちた人間関係を育ませる。

塾生の皆さんは半年後、教師として子供の前に立つこととなります。授業をはじめとして様々な教育活動の中で、子供一人一人がよさを発揮し、自己の成長と喜びを感じることができるよう子供の姿を的確に捉えて、一人一人のよさと可能性を見抜く力を身に付けて、指導力の向上に努めていきましょう。